

研修会等参加報告書

令和元年12月 2日

天童市議会議長様

会派名 てんどう創生の会

代表者氏名 渡辺 博司



下記により、会派において研修会等に参加してきましたので報告します。

記

研修会等名	市町村議会議員研修（2日間コース） 令和元年度「子供都市・農山漁村交流体験活動」による地域づくり
主催団体名	全国市町村国際文化研修所
日時	令和元年11月21日（木）12:30 ～ 22日（金）15:30
会場・場所	全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号
全体参加者数	40人
内容等	<p>1. 【導入講義】 講師：花垣 紀之 氏（一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構） （内容） ①農山漁村での受入側の体制整備の促進 ②地域の未来目標の設定（地域合意形成） ③地域内連携による体制整備（交流実践） ④地域コミュニティによる取組（経済波及効果） ⑤担い手の育成・定住促進（課題解決）</p> <p>2. 【受入側の事例紹介】 講師：佐本 真志 氏（一般社団法人 南紀州交流公社 事務局長） （内容） 【理念】 全ての内容は、住まう人の“普段の生活”を体験させることである。 【結論】 地域活性化、交流・定住人口の拡大、持続可能な目標の確率等</p> <p>3. 【送り側の事例紹介】</p>

「子ども農山漁村交流体験活動による地域づくり研修～子どもへ大人へ、体験学習による交流のススメ～」

講師：小野 達也 氏（新潟県胎内市前教育長）

いちごカンパニーの嘱託社員

（内容）

- ①なぜいま、体験型学習が必要とされているのか？
- ②社会や親たちも巻き込んだ教育施策の変化
- ③教育改革の中で誕生した胎内市の教育施策・事業
- ④地域の子どもは地域で育む
- ⑤「ふるさと体験学習」が誕生した経緯
- ⑥胎内市のふるさと体験学習とは？
- ⑦学習体験を推進する上での留意点

4. グループワーク

5. 【国の支援施策説明】「子ども農山漁村交流プロジェクト」関連支援施策

講師：総務省自治行政地域自立応援課人材力活性化・連携交流室地域支援専門官

目貫 誠 氏

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 主査 坂本 陽佳 氏

農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課 課長補佐

杉原 裕幸 氏

（内容）

【現状】

農山漁村体験には小学生 32 万人、中学生 37 万人、高校生 15 万人が取り組んでいると推測されるが、都市部の児童生徒に将来の UIJ ターンの基礎を形成するとともに、地方の児童生徒に足元の地方の魅力の再発見を促すことが期待できるため、一層の推進が必要である。

また、生きる力の醸成等の教育効果を得るためには、おおむね 1 週間程度の体験が望ましいとされるが、現場ではほとんどが 1 泊 2 日または 2 泊 3 日の短期間の体験にとどまっている。

6. 【教育的な効果を高めるプログラムの展開方法について】

講師：小林 真一 氏（独立行政法人 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 参事兼広域主幹）

（内容）

1. プログラムの展開方法
2. 子ども農山漁村交流プロジェクト
3. 各教科等に対応したプログラムを作成する際の留意点

		<p>体験交流型観光による教育旅行を中心に受入れ (窓口) 事務局 (官民協働の協議会) (受入側) 地域農山漁村協議会 (個人・団体) (送り側) 農山漁村の良さを知る←体験交流→まちの良さを知ってもらおう (受入側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びを提供できるようにするためには、受入側も地域のことを熟知する。 ・現状の地域の問題課題→この部分も送り側にも伝える ・緊急事故対応フローチャートを周知徹底する (緊急事故対応連絡体制の確立) ・受入は難しいものとして考えるのではなく、地域や普段の生活習慣を多くの人に知ってもらおうことだということである。 <p>受入側・送り側の関係性を受け入れる前から構築しておくことで、体験者を引率する先生等も笑顔で楽しめることで、次につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q. 教育効果の高いプログラムとは? <p>A. 「子プロ」を教育課程に位置付け、位置付けた各教科等の目標や内容に合致させたプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q. どこまでを「子プロのプログラム」にするのか? <p>A. 体験から得られる効果が、位置付けた各教科等の目標や内容に合致している活動</p>
--	--	---